

風と流れのプラットフォーム・ シンポジウム 2016

参加費無料
(事前登録制)

2016年

11月22日(火)

14:20~17:30

会場

特定国立研究開発法人産業技術総合研究所
つくばセンター共用講堂

〒305-8560 茨城県つくば市梅園 1-1-1



「JR」荒川沖駅 → (バス)産総研つくば中央
「つくばエクスプレス」つくば駅 → (バス)並木二丁目

共同主催

国立研究開発法人海洋研究開発機構
特定国立研究開発法人産業技術総合研究所
一般社団法人 可視化情報学会
(「風洞技術の開発と応用シンポジウム-風洞シンポジウム2016-」
との合同シンポジウム)

海洋研究開発機構 (代表機関) 地球情報基盤センター

— 地球シミュレータの特長 —

- ・異なる2つの世界最大級スパコン
- ベクトル型スパコン (1.3PFlops) / 共有メモリ型スパコン (32TB Memory)
- ・産業利用で実績



東北大学流体科学研究所

— 低乱風洞の特長 —

- ・世界屈指の低乱れ強さ
- ・先端風洞試験技術
- ・磁力支持による理想的な流れを実現



宇宙航空研究開発機構 調布航空宇宙センター

— 低速風洞群の特長 —

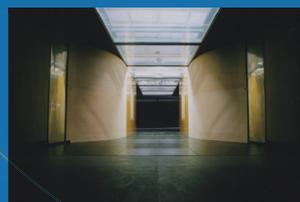
- ・航空宇宙分野での実績と経験
- ・大型測定部 (6.5m×5.5m)



九州大学応用力学研究所

— 地球大気動態シミュレーション装置の特長 —

- ・再生エネルギー関連試験で実績 (風車)



京都大学防災研究所

— 境界層風洞の特長 —

- ・風災害低減で豊富な実績



平成28年度より文部科学省先端研究基盤共用促進事業の支援で開始された「風と流れのプラットフォーム」事業を紹介します。「風と流れ」に関する幅広い分野の問題解決とイノベーション創出にフォーカスした民間企業等の製品・研究開発に、国内最先端の風洞実験施設やスーパーコンピュータが利用できる高度利用支援サービスです。

プログラム

来賓挨拶

渡辺 その子（文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課長）

風と流れのプラットフォーム事業の紹介

浅野 俊幸（海洋研究開発機構）

大型風洞と温度成層風洞の紹介とそれらを用いた実験例

大屋 裕二（九州大学応用力学研究所）

京都大学防災研究所境界層風洞実験装置の紹介

丸山 敬（京都大学防災研究所）

東北大学低乱風洞実験施設の紹介

大林 茂（東北大学流体科学研究所）

風洞試験と CFD を融合した研究開発の取り組み事例紹介

加藤 裕之（宇宙航空研究開発機構）

閉会の辞

高橋 桂子（海洋研究開発機構 地球情報基盤センター長）

■ 懇親会

講演終了後に懇親会を企画しています。

※ 会 費：3,000 円（当日会場にて集金）

■ 申込方法

「風と流れのプラットフォーム・シンポジウム 2016 参加申込」と題記し、(1) 氏名・所属、(2) 連絡先（E-mail、TEL）、(3) 懇親会の出欠を E-mail にて受付担当（E-mail: nagare-apply@jamstec.go.jp）までお申し込み下さい。

■ 申込期限

平成 28 年 11 月 15 日（火）

■ 問い合わせ先

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球情報基盤センター「風と流れのプラットフォーム」担当

〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町 3173-25

TEL: 045-778-5456 E-mail: nagare-apply@jamstec.go.jp

URL: <http://www.jamstec.go.jp/ceist/kazenagare-pf/>

当日午前中、同じ会場にて一般社団法人可視化情報学会、特定国立研究開発法人産業技術総合研究所の共同主催の『風洞技術の開発と応用シンポジウム～風洞シンポジウム2016～』が開催されます。本シンポジウムの詳細は“<http://www.visualization.jp/>”を参照ください。